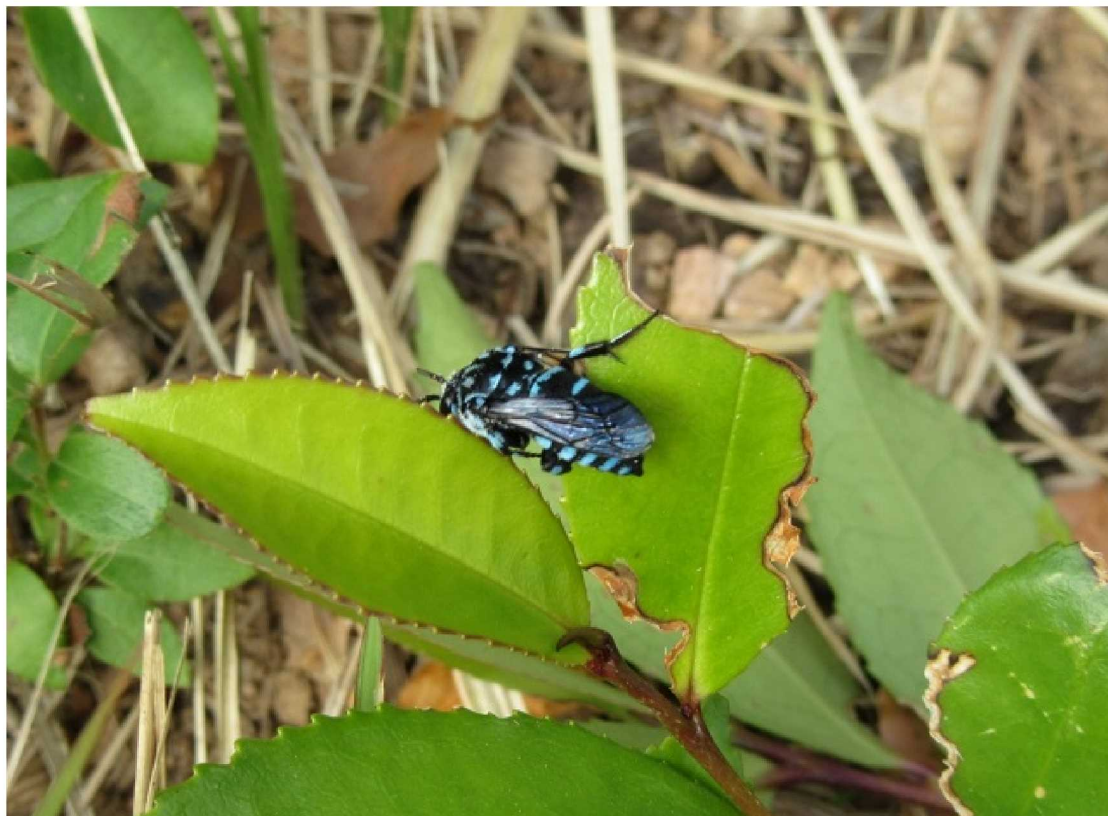


「今月の1枚」

ナミルリモンハナバチ（ミツバチ科） *Thyreus decorus*

写真 10月30日撮影のナミルリモンハナバチ



国内では本州、四国、九州に分布する草原性のハチで、林縁や疎林などにも生息します。

成虫は9月から11月ごろに見られます。体長は12mm程度で、和名を漢字で表記すると並瑠璃紋花蜂となります。名前の通り、美しい青い模様があり、ブルービーとも呼ばれますが、生息地となる草地が減少しているため、あまり見かけることがありません。そのため、「幸せを呼ぶ青いハチ」と称されることがあります。環境省の2012年8月の第4次レッドリストにはDD（情報不足）として掲載されています。

コシブトハナバチ類やケブカハナバチ類の巣に産卵して、幼虫はその巣に蓄えられた花粉を横取りして食べて育ちます。このように、他種の労働を搾取する形の行動を取ることを労働寄生といいます。

（写真：酒井敦、文：佐藤重穂 森林総合研究所四国支所（高知市朝倉西町）にて撮影）

（No.279 2018.11.1 掲載）